

# 円通寺だより

平成30年5月  
第105号



## セクハラと女性活躍社会

最近のニュースではいろいろな立場の方のパワハラ、セクハラ問題が話題になりました。今急にこのような問題が増えてきたわけではなく、これまで問題として認識されてこなかったということだと思います。屈辱や苦痛に耐えてきた女性が少しずつ声を上げてきた結果であろうかと思えます。なぜ屈辱に耐えてきたかその原因として、相手が上司であったり取引先など地位や立場が自分より上で抗議しづらい関係であること、世間の理解が得られておらずそんなことぐらいで見られていることなどが上げられると思います。根底には「男の方が女より偉い」という考え方が人類始まって以来ずっと刷り込まれてきたせいではないかと思ったりします。

財務省の偉い役人さんが、「接客業の女性とは言葉遊びをすることがある。」とおっしゃっていましたが、接客業の女性ならセクハラをしてもいいと言ってるように聞こえます。大相撲の土俵は神事だから女人禁制だそうです。神事だとなぜ女人禁制なのかがよくわかりません。天照大神は神さまだけど女性だからやはり断られるのでしょうか。先日読んだ記事では江戸時代までは女相撲があり、明治になって女性が上半身裸で相撲を取るの外国から野蛮な国だと思われるので禁止になったとありました。神事ということであれば表彰式も土俵下ですべきではないかと思えますが。

女性が車を運転することや教育を受けることが禁止されている国よりは日本はずっと恵まれていると思いますが、世界の先進国から見ると女性の地位はまだまだ低いようです。男女ともに意識改革が必要だと思います。



## お知らせ

日中 午後2時より 速夜 午後3時30分より  
講師 中能登町高島 徳照寺 亀居 津師



## 祠堂経会

平成30年6月30日(土)

護法会(河合谷地区の物故者追悼法要)

平成30年7月1日(日)

## 仏教における女性の救い

1時半より

浄土真宗の教えでは、身分、老若男女に関係なく仏様に救いを求めて南無阿弥陀仏と念仏するものすべてを救い取って見捨てない、すべての衆生は平等に救われるとされていますが、法蔵菩薩が誓いを立てた四十八願のうち三十五願では、女性の身のままでは救われず命が終わった後男になって救われるということが述べられています。蓮如上人の御文でも五障三従ごしようさんしゅうの女人という言葉が出てきます。五障三従とは、5つのさわり、煩惱障(煩惱のさわり)、業障(悪業のさわり)、生障(業により悪い環境に生まれたさわり)、法障(宿悪により聞法できないさわり)、所知障(修行できないさわり)、修行を妨げる3つのさわり(見仏、聞法、供養のできないこと)と、かなり女性は悪者扱いです。お釈迦様の時代から女性蔑視というよりも、実際の所は恐れられていたのではないかと私は思います。

御文では何度も女人成仏の事が出てくるので、業の深い女性が浄土往生できるように念仏の教えを勧めたものと思われまます。お葬式の時の和讃も男女で区別されていましたが、最近男女とも同じ和讃を読むようになってきました。女性を格下に見る価値観はこのような仏教や儒教などの影響も大きかったかも知れません。

